

令和5年度 学校関係者評価(結果)

学校番号	62208	学校法人脳谷学園 静岡南幼稚園	記載者	青島範明
------	-------	-----------------	-----	------

学校教育目標	遊びを通して様々なことを学び、互いの考えを尊重しながら、自己を確立する。	【総合評価】 総合評価で4という高い評価を受けたことは、よかったと思う。各項目において、教職員による自己評価とは違った観点で評価をし、様々な成果と課題、さらには次年度の取り組みに対するリクエストを上げていただいた事は、よく本園の教育活動に対して関心を寄せてくれていることが感じられ、今後一層の研鑽に努めていきたい。 毎年、時代の流れをとらえながら、あるべき幼児教育の姿を仮定し、先取りした形で取り組みを進めてきたことが、毎年少しずつ成果が表れ、本園の教育スタイルとして定着していく様相が見え始めているものと思う。この点を、新たに入園を希望される子どもたちと保護者にも訴えることで、本園の独自性を見せるとともに他園との差別化を明確に図ることで、少子化の中でも生き残れる幼稚園として努力していきたいと考える。そのためにも、毎年の評価をしっかりとまとめ、課題を洗い出して、次に何をすべきかを、全教員で共有し取り組んで行く組織づくりが求められる。強い組織は、一つの方向性に向けて、構成員たる教員が、一丸となって向かっていくスタンスが取れる時に生まれるものである。 次年度も、園長以下、それぞれのセクションのリーダーが、自分の職責を果たし、職務を全うすることに期待したい。			
教育方針	・学校教育法及び幼稚園教育要領に従い、幼児教育の役割を遂行する。 ・家庭では体験できない新たな世界と出会いの場を設け、幼児の自立に向けた基礎を育成することをねらいとした教育を目指す。				
今年度の重点目標			評価	今年度の成果と課題	次年度の取組
1	少子化がさらに進行中、目標園児数(収容定員)を獲得する。	4	・子ども達が施設やイベントで楽しく参加する様子は素晴らしいアピールだった。 ・新しい環境や人前での経験に恥ずかしさを感ぜながらも、楽しく挑戦する姿は魅力的であった。 ・商業施設でのデジタルサイネージを活用した園のアピールは効果的で、家族連れが集まる場所でのPRは、園の魅力を広く伝える素晴らしい取り組みだと感じられる。	・外部イベントへの積極参加やホームページ、インスタグラムの定期更新を通じて、南幼稚園ならではの特徴や良さを発信する。 ・他の園にはない独自のプログラムや教育方針を伝え、保護者や地域とのコミュニケーションを深めることで、より多くの人々に魅力を伝えていく。	
2	時代を見据えた教育を展開する。	4	・フットボールの導入により、子ども達が対話しながら互いの意見を尊重し、作戦を練るといった貴重な経験ができた。そうした成果が、国籍が違う子どもも増えてきている中、子ども達が、互いを理解し、尊重しあい、仲良くできる人間関係の構築につながっていると思う。	・今年度も一部のクラスで導入されていた絵本で、性教育への取り組みが展開されていたが、次年度はそれぞれの学年にあった形で性教育への取り組みを進めていく。そして、自分の体は自分で守る、大切にすることを学んでいく教育を展開する。	
3	5年度・10年後を見据えた本園の姿について検討する。	4	・毎年、時代を見据えた教育を展開しているが、教員の負担が大きくなる事を願いたい。 ・施設設備の老朽化や時代の求める教育の在り方をとらえての教育投資が必要となっている現状の中で、予算をどこに重点的にかけるかを検討され実行していた。	・教員の確保と資質向上、そして他の幼稚園との情報交換が重要となる。 ・新人教員のサポートを強化する必要があり、1年目の新人には副担任を付け、2人制にするなどの対策を考えていく必要がある。	

領域	ねらい	評価項目	今年度の達成目標	昨年度の実績	評価	今年度の成果と課題	次年度の取組
学校経営・教育課程・指導方法	適切な教育課程が編成され、学習目標・計画が明示され、日常の学習活動を効果的に展開する。	教育課程、教育目標・計画・指導、課題実	・今後も継続して、教師のみならず、園児たちも振り返りを行うことで、深い学びにつながる教育活動を展開していく。 ・教師は、日々の教育活動において、新しい発想や、アイデアを出し合いマンネリ化せず、年々向上出来るようにする。 ・学年に応じて行われる外部講師による「リズムあそび」、「あそびっこ」、「フットボール」、「スイミング」や、内部のALTIによる「えいごあそび」を、それぞれが単発的な活動に終わるのではなく、それぞれの活動が、年齢の発達段階において連関性をもたせ、諸活動を通して、子供たちの「非認知能力」を高めることが、本園の一層の強みとなるよう、教育活動をすすめていく。また、思考力を引き出す活動も展開する。そして、その様子をもっと保護者や、未就園児の保護者にもアピールする。	・今年度も新型コロナウイルス感染対策をしながら状況を見て、できる限り行事及び活動等を実施した。 ・子どもたちの個性を認めながら、誰もが活躍できる教育活動を展開した。そのプロセスの中で、教師自身も常に実施したことを振り返り、一つの活動が単発的なもので終わらせるので話、次の活動につなげる事を意識した活動を展開した。 ・学年に応じて行われる外部講師による「リズムあそび」、「あそびっこ」、「フットボール」、「スイミング」や、内部のALTIによる「えいごあそび」を展開し、活動を通して、子どもたちの「非認知能力」を高めるとともに、本園の強みとなる教育活動として強く外部にアピールしてきた。その様子をもっと保護者や、未就園児の保護者にもアピールしたい。	4	・あそびっこのプログラムでは、運動遊びを通じた体力作りや、幅広い発達領域を促進する教育プログラムが展開され、子どもの主体性やコミュニケーション能力を育む取り組みが評価される。 ・フットボールでは、単なる運動だけでなく、チーム作りや戦略の考え方を学ぶことが、幼児期に對話する能力をつける取り組みが驚きだった。 ・写真を使った日々の振り返りは、子供の成長を促し、自信ややる気を高めるだけでなく、保護者とのコミュニケーションにも繋がった。	・今後もあそびっこの取り組みを継続し、個々の子どもの能力を見極め、柔軟に対応していく。また、クラス担任との連携を強化し、保護者に園の教育方針やプログラムの意味や理論的背景を啓発する活動も重要となるので、プログラムの意味を広く理解してもらうための活動をする。 ・遠足や多くの園外での活動は、子ども達にとって貴重な経験であり、今後も継続して実施していく。
安全管理	日常から防災に対する意識を高め、予期せぬ災害時に適切な対応ができる体制作りをすることが必要。また、学校としても校内の危険箇所の定期的な点検、園バスの安全運行といった意識を常に持ち合わせる。園児の健康管理のための検診計画を作成・実行し、疾病者に対する治療助言を行う。	防災訓練(校内・校外)、災害時の対応、安全な教育環境、安全なスクールバスの運行、検診計画、健康管理指導	・年間を通しての防災に係る訓練を実施し、有事の際に、子どもたちも適切な行動がとれる訓練を実施した。 ・教職員は防犯に対する意識がまだまだ高まっていないと思われる。外部から入手した事件情報に関して、園メールの配信などを通して、保護者と共有するよう努めた。最近是不審者の情報も聞かれるので対応についても、教職員の連携を考えていきたい。来訪者には、正門ではインターホンを必ず押してもらい、顔を確認してから入ってもらうようことを徹底するとともに、7箇所設置している防犯カメラでの監視体制を強くしていく。 ・園児たちの登降園児の安全確保のため、交通ルールを学ぶ安全教室を年間計画で実施した。 ・園バスの乗降は、教職員及び園バスの乗務員で、再度改定された危機管理マニュアルをもう一度確認し、事故が起きないように体制を作る。 ・最近是不審者の情報も聞かれるので対応についても、教職員の連携を考えていく。外部からの来訪者には、正門ではインターホンを必ず押してもらい、顔を確認してから入ってもらうようにすることの徹底を図る。また、不審者対策についての訓練実施も実施する。	・年間を通しての防災に係る訓練を実施し、有事の際に、子どもたちも適切な行動がとれる訓練を実施した。 ・教職員は防犯に対する意識がまだまだ高まっていないと思われる。外部から入手した事件情報に関して、園メールの配信などを通して、保護者と共有するよう努めた。最近是不審者の情報も聞かれるので対応についても、教職員の連携を考えていきたい。来訪者には、正門ではインターホンを必ず押してもらい、顔を確認してから入ってもらうようことを徹底するとともに、7箇所設置している防犯カメラでの監視体制を強くしていく。 ・園児たちの登降園児の安全確保のため、交通ルールを学ぶ安全教室を年間計画で実施した。 ・園バスの乗降は、教職員及び園バスの乗務員で、再度改定された危機管理マニュアルをもう一度確認し、事故が起きないように体制を作る。 ・最近是不審者の情報も聞かれるので対応についても、教職員の連携を考えていく。外部からの来訪者には、正門ではインターホンを必ず押してもらい、顔を確認してから入ってもらうようにすることの徹底を図る。また、不審者対策についての訓練実施も実施する。	4	・園バスや遠足、園内での安全管理に気を配り、事故やケガがなかったことは評価に値する。 ・玄関の安全対策や登降時の指導については、改善の余地がある。 ・保護者としてはコミュニケーションなどの活用が増えることで安心感が得られると思う。引き続き、職員の方々の努力に感謝し、子ども達を安心・安全に預けられる南幼稚園の良さを出してほしい。	・安全なバス停の確保や警察、警備会社との連携を強化する。 ・季節ごとの病気対策や車の送迎ルールの厳守を徹底し、保護者にも定期的にルールを周知するための情報提供を行う。
子育て支援	年間を通じて、本園独自の子育て支援活動に積極的に取り組む。	年間を通じて、開園日の預かり保育及び長期休業中の預かり保育の実施、入園希望者に対する園の公開活動、未就園児を対象とした本園独自の活動の展開	・引き続き、年間で200日を超える預かり保育の実施日を設定し、利用する保護者や子どもたちに対する利便性を高める。 ・1・2歳を対象とした未就園児の活動を色々な内容で計画し充実させていく。今年度実施した「リンゴちゃんルーム」も、参加者同士が、本園地を中心として、より交流や情報交換ができるように、運営方法を再検討し、実施していく。また、担当する人数も、年間を通じて動けるよう人員を配置する。 ・本年以上に園見学、体験を増やす。また、従前は違った形のものも検討し実施していく。 ・機会を作り、場所を変えての未就園児の活動イベントを検討する。 ・2歳児の一時預かりの実施が可能であるか検討する。 ・在園児と未就園児が交流できるイベントを企画する。	・年間で200日を超える預かり保育の実施日を設定し、利用する保護者や子どもたちに対する利便性を高めた。 ・1・2歳を対象とした未就園児が参加できる「親子ふれあいあそび」や「りんごちゃんルーム」を、各月に実施した。これにより、幼稚園がどのようなところか、早期段階で保護者に理解してもらおうと共に、子どもたちが体験する場を設けることが出来た。引き続き、より保護者に対する魅力的な子育て支援を検討したい。 ・本園がどのような教育活動を展開し、どのような特色を持った幼稚園であるかを理解してもらうために、園見学会や体験入園の実施回数を、昨年度以上に増やした。また、広報は引き続き園長、教頭だけでなく、教職員が全体で取り組む意識を持てる組織づくりをすることができた。	4	・預かり保育の拡充や未就園児を対象としたリンゴちゃんルームを通じた保護者の交流の場が提供されていることが評価される。 ・親子ふれあいあそびや園庭開放を通じて、未就園児の保護者にとっては、日常的な心配事や情報収集の場が持て、園の様子や行事の公開により、入園前から幼稚園のイメージが持てる点が好評評価を受けている。 ・働く保護者にとって預かり保育は大変ありがたいサービスであり、園の広報活動やインスタでの未就園児活動の報告が入園前の信頼関係構築に役立っている。	・未就園児たちが幼稚園に来てくれることが第一なので、未就園児向けのイベントを継続し、内容については研修会などに参加して内容の充実を図る。 ・就学後の学校適応に関する保護者の不安に応えるため、卒園生の同窓会や保護者の「立ち寄れる場」を提供するニーズがあるが、教諭の負担を考えながら、前向きに検討したい。 ・未就園児が楽しめるイベントを継続し、食物アレルギーや発達について気軽に相談できる雰囲気を作る。また、父親の育児参加を促進するためのアピールも行う。

特別支援教育	支援が必要な子、気になる子への対応をすると共に、特別支援計画をたて実行する。	支援計画・支援体制の確立、巡回訪問カウンセリングの活用、療育施設との園児に関する情報交換、保護者との情報交換	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き巡回カウンセリングの講師やアリエー、パソやハッピーテラス、リタリコ、みなしあ等の療育施設や保健センター等と日常的に子どもの姿の情報交換を行い、保護者も含め三者間で協力し、発達障害を抱える子供の成長に寄与するように努めていく。 ・本園入園後に、子供の状況を見て支援が必要と思われる園児がいた場合は、保護者に子どもの状況をつた、保護者に寄り添いながら、一緒に考えて対応を考えていく。 ・教師が在園児で、専門家の助言を必要とした場合は、療育関係を専門化する施設関係者や医師の助言を積極的に求めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の子どもが発達障害ではないかと考える保護者が増加している、そうした保護者に対し、子どもの状況を細かく見ながら、家庭と情報交換を密にし、子どもの指導に活かすことで、成長を助けていく体制づくりをした。 ・入園後、指導の過程で気になる子供については、巡回カウンセリングを活用し、意見を聞くとともに指導助言を求めながら、日常の園児指導に活かした。 ・本園以外で、療育指導を必要とする子どもたちについては、通所するアリエー、パソやハッピーテラス、リタリコ等施設との情報交換を密にし、保護者も含めて、三者で子供の成長をサポートする体制を展開した。しかし、保護者に子供の状況が伝わらないケースも多かった。 ・発達障害時に関しては、その子にあった個別指導体制をとれるような環境を作り、場合によっては、園児と教師が一対一で指導する対応をした。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・療育施設の関係者、保護者、そして病院の医師との三者で連携を取り合い、面談やカウンセリングの内容を、支援が必要な子どものために十分いかせるような支援体制を構築する。 ・支援コーディネーターを置き、療育施設・病院・保護者・本園との連携を密にする体制を作る。 ・特に「所謂グレーゾーンの子ども」に関しては、長期間にわたり見守り、その子の状況を理解し、保護者にも理解を促す取り組みを行う。
教育環境	園児たちが楽しんで教育活動に取り組める環境づくりに工夫をする。	「週案」及び「日案」における計画的な教育活動の実施、日常の教育活動の展開のうえで、興味・関心を高める工夫、活動の振り返りによる次の活動に対するモチベーションを高める	<ul style="list-style-type: none"> ・年度の教育目標、学年、学期でのシラバスを明確にし、それに基づいて「週案」「日案」で短期的な教育目標と到達目標を明確にする。また、それを、園長・教頭・主幹が目を通し、指導・助言をする体制を作る。 ・引き続き、非認知能力の育成に務める教育環境づくりをしていくことはいままでの延長で、諸活動を通じて、鋸歯も園児もリフレクション（振り返り）をすることを習慣化していくことで、「深い学び」につながる手法を考えていく。また、それにより認知能力の育成に、どこまで幼児教育段階で進めていくことができるかについて研究を深め、幼少連携プログラムについて考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「週案」及び「日案」で、短期的なスパンでの教育計画を作成する際に、子どもたちの興味・関心が高まり、個々の活動に対して楽しんで取り組めるようにした。 ・個々の教育活動において、子どもたちが自発的に考え、想像力を掻き立て、子どもたちの創造力を伸ばす教育環境の構築を図れた。 ・教師も子どもたちも、様々な教育活動の節目節目で、「リフレクション（振り返り）」をすることで、より深く学びについて考えていける教育スタイルを作り実行した。これを、PDCAサイクルで繰り返し、「深い学び」への手法を模索することができた。 ・各活動を単発的に終わらせることなく、継続的な活動にしていくことで、活動に発展性を持たせ「リフレクション（振り返り）」の機会を多く設定し、それにより活動に更なる発展性を持たせることができた。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・壁に貼られた作品や備品などに興味を持たせる「しかけ」が施されており、図書コーナーも充実している。子ども達がリラックスできるスペースやクールダウンの場としても活用でき環境が整っている。 ・イベントや外部講師の活用も充実し、子ども達が楽しく学べる環境が整えられている。 ・日常の園生活でも子どもの気持ちに寄り添いながら進められており、保護者にも子どもの成長が伝えられる機会が提供されている。 ・学期末の「がんばったねの会」では、子ども達が自分の頑張りを振り返り、自信を持つ機会を得られており、子どもたちの自己肯定感を高めることにつながっている。
研修	教育内容が問われる時代、教職員の資質向上が常に求められるので、計画的かつ時代が求める教師となっていくための研修を的確に実施し、各教職員が個々のスキルを上げていく体制作りをする。また、研修内容を共有化していくためのシステム作りをしていく。	計画的な研修体制の確立、校外研修への参加、研修報告会の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・園内研修については、定期的にテーマを設定し、新たな知識・情報について触れる機会を設定する。 ・外部研修については、参加した教職員が学んだことを、教職員で共有できる機会を設け、全体でのスキルアップを図り、情報交換をしていく。 ・「はごろも教育研究奨励助成事業」において、外部講師を招いての研修体制を作る機会を設け、全体でのスキルアップを図ることができなかった点は、反省すべき点となった。 ・ECEQの公開保育に応募し、本園の教育について、客観的な見地から外部の教員に評価をしてもらうことができ、高い評価を得ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・園内研修については、幼稚園協会でテーマとすることについての研修だけでなく、必要に応じてテーマを設定し、研修を実施することで、教員のスキルアップに努めることができた。 ・外部の研修に関しては、人員のやりくりを考えながら、教職員が参加できるような体制を整えることで、教員の処遇改善の適応条件を満たせるようにした。 ・外部研修については、参加した教職員が学んだことを、教職員で共有できる機会を設け、全体でのスキルアップを図ることができなかった点は、反省すべき点となった。 ・ECEQの公開保育に応募し、本園の教育について、客観的な見地から外部の教員に評価をしてもらうことができ、高い評価を得ることができた。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・自己研鑽のため、研修会への参加を継続していく。 ・研修を受けた教員が得た知識や情報を全体に伝えるために、ボイスレコーダーなどを活用して一部抜粋することなどで、全教員に研修内容が伝えられるような機会を設定する。 ・教諭のキャリアや興味関心に応じて、研修への参加ができる環境を整えることが重要であり、教諭の余裕や余力も維持することが必要。
保護者、地域住民との連携	保護者や地域諸団体や地域住民との交流・連携を図る。	保護者の会との情報交換、学校運営に対する外部団体の参画、外部要望の学校運営に対する反映、保護者に対する協力依頼	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、外部からもたらされるオファーに関しては、できる限り応えるべく対応をする。 ・保護者参観会等で、日常の子どもの様子を見てもらう機会を増やし、教師と保護者がコミュニケーションをとることで、情報交換ができるようにする。 ・私立関係者との交流の場ができる限り参加することで、情報交換に努め、今後の私立教育に何が求められ、どのように教育を展開すべきかのトレンドをつかむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの感染状況が沈静化し傾向がようやくみられるようになってきたが、今年度も地域との交流がとりにくい状況は続いた。しかし、少しでもかわりがあることに関しては協力する意識をもって活動するよう努めた。 ・外部からもたらされるオファーに関しては、できる限り応えるべく対応をした。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や地域住民との連携は安全管理や不審者からの保護にも役立つので、こうした交流の機会は大切にしていきたい。 ・学年懇談会では、学年主任が日常の子どもの様子を、分かりやすく話しをしてくれ、子どもへの声掛けの重要性や貴重な教訓を学べることは、親として参考になった。 ・外部からの様々なオファーに対応することは重要であるので、これからも可能な限り受けて参加する。 ・地域の方々との交流は子ども達の視野を広げ、良い刺激になるので、積極的に取り組む。 ・園長が化学実験を行う機会を設定し、子ども達の知的好奇心を高めるようにする。
情報提供	幼稚園に関する活動状況などに関する情報発信を積極的に行う。	ホームページ、フェイスブック、インスタグラム等による情報発信、パンフレットの毎年更新、園メールやICTシステムの活用による保護者への情報提供と園との情報交換	<ul style="list-style-type: none"> ・新たにICTシステムを導入したことで、在園児の出欠管理については、定着してきた。次年度は、園バスの乗車・運航に関する連絡体制、預かり保育の申し込み及び決済方法について、保護者の利便性を考えた環境を実施する。 ・入園規模者にとってホームページによる情報収集は、保護者にとって基本的なものとなっている。更新については、順次新しい情報を提供できるように努める。また、在園児の保護者に対して活用する。 ・フェイスブックやインスタグラムで、タイムリーな園児の活動状況を公開する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や社会で、本園の状況を知る入り口となっているホームページについては、全面的に刷新した。それにより、本園の教育内容が、より理解しやすい状態を作ることができた。さらに、様々なイベントに参加したいと思う方たちが、イベントに申し込みやすいシステムを構築することができ、参加者も昨年以上に増加した。 ・個人情報保護の観点から難しいものがあつたが、フェイスブックやインスタグラムなどで、本園の教育活動を公開し、子どもたちの躍動的な姿を公開することができ、本園の教育活動に対する理解が深まった。 ・新たにICTシステムを導入することで、在園児の出欠管理、園バスに関する情報、預かり保育の申し込みなどについて、保護者の利便性を考えた環境を作った。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・教員がインスタグラム等で、園児の様子をアップロードしてくれることは、日常の生活の様子がわかり、保護者として評価したい。教室の中の様子を見せてもらうことで、今何が飾られているのか教室の環境がわかり、他のクラスの様子も知れて楽しく感じられた。また、教員の熱いコメントも共有されているので、その思いが保護者に伝わった。 ・ホームページやインスタグラムの継続を図る。 ・ICTシステムをフル活用し、安全確保に努める。 ・年間を通して様々な行事があり、楽しいことがいっぱい詰まった幼稚園であることを、今後もSNSを通じて今まで以上に発信していく。
総合評価					4	